

伝えよう！

カスリン・アイオン台風60年
忘れまい！先人達の努力と勇気

［カスリン・アイオン台風60年事業報告書］







伝えよう！
カスリン・アイオン台風60年
忘れまい！先人達の努力と勇気

カスリン・アイオン台風60年事業実行委員会

伝えよう！

カスリン・アイオン台風60年
忘れまい！先人達の努力と勇気

［カスリン・アイオン台風60年事業報告書］

伝えよう！
カスリン・アイオン台風60年
忘れまい！先人達の努力と勇気

カスリン・アイオン台風60年事業実行委員会

ごあいさつ



カスリン・アイオン台風60年
事業実行委員長
一関市長　**浅井　東兵衛**

昭和22年のカスリン台風、翌23年のアイオン台風により北上川とその支川が氾濫し、岩手県内は2年連続の大水害に見舞われました。特に一関市は、磐井川堤防の決壊により死者・行方不明者573名の未曾有の被害を受けました。

平成19年、20年は、それぞれカスリン台風、アイオン台風から60年の節目の年にあたることから、当時の水害の記憶を風化させることなく後世に伝えるとともに、災害に強い地域社会の構築を目的に、平成19年3月にカスリン・アイオン台風60年事業実行委員会を設立し、各種行事に取り組んで参ったところであります。

近年、記録的な集中豪雨や台風などにより全国各地で洪水災害や土砂災害が多発しており、北上川流域でも平成10年、14年と大きな被害が発生しました。さらに平成19年9月にはカスリン・アイオン台風60年治水大会の開催直後、秋雨前線による豪雨が県内を襲うなど、いつ水害が発生しても不思議ではない状況にありますが、治水対策は未だ十分とは言えない状況にあります。

カスリン台風、アイオン台風のような大水害を二度と繰り返さないためにも、当時の水害を再認識するとともに、北上川とその支川の治水対策の重要性について考え、現在工事が進められております一関遊水地事業をはじめとする治水事業の整備促進に向けて、今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げる次第であります。

また、平成20年6月14日に発生した一関市西部を震源とする、マグニチュード7・2の大地震により、磐井川流域各所で崩落した土砂により流れがせき止められ、河道閉塞（天然ダム）が発生しました。これら天然ダムが決壊することにより、土石流が一関市街地を襲うという、アイオン台風時の磐井川堤防決壊の再現への危機感から、国・県・建設業協会等、関係機関の皆様により迅速に対応策が実施されましたことは、まさに、過去の水害の教訓が生かされたものと強く実感いたしました。

今後とも、水害の歴史を風化させることなく次世代に伝えていくとともに、学んだ教訓を活かし、災害に強い地域社会の構築に向けて、様々な角度から考えるとともに、防災・減災対策に役立てていくことが重要であります。

豊かな自然の恵みが育んだ北上川地域で、川との共生を目指しながら、流域に暮らす人々が一日でも早く安全で安心して生活できるよう、治水対策の整備促進を願うとともに、本書が水害の記憶を後世に引き継ぐ取り組みの資料となるものと期待し、ご挨拶といたします。

伝えよう！

カスリン・アイオン台風60年
忘れまい！先人たちの努力と勇気

カスリン・アイオン台風60年事業報告書

C O N T E N T S

ごあいさつ —— 2

台風の記録
カスリン台風・アイオン台風 —— 4

水害体験談 —— 12

北上川の洪水対策 —— 16

災害の記録 —— 18

カスリン・アイオン60年事業

事業行事一覧 —— 24

カスリン・アイオン台風60年治水大会 —— 26

とうほく☆地域を守る防災コンテスト 30

市民ミュージカル「一関の年輪」—— 31

北上川上流水防演習 —— 32

その他主な事業 —— 34

あなたとかわ 想いで写真集 —— 38

台風の記録 ①

カスリン台風

第2次世界大戦が終結した翌々年、昭和22年9月14日から16日にかけてカスリン台風が日本を襲った。戦中に雨をくいとめる山の木々が伐採されていたこともあって大きな被害につながった。

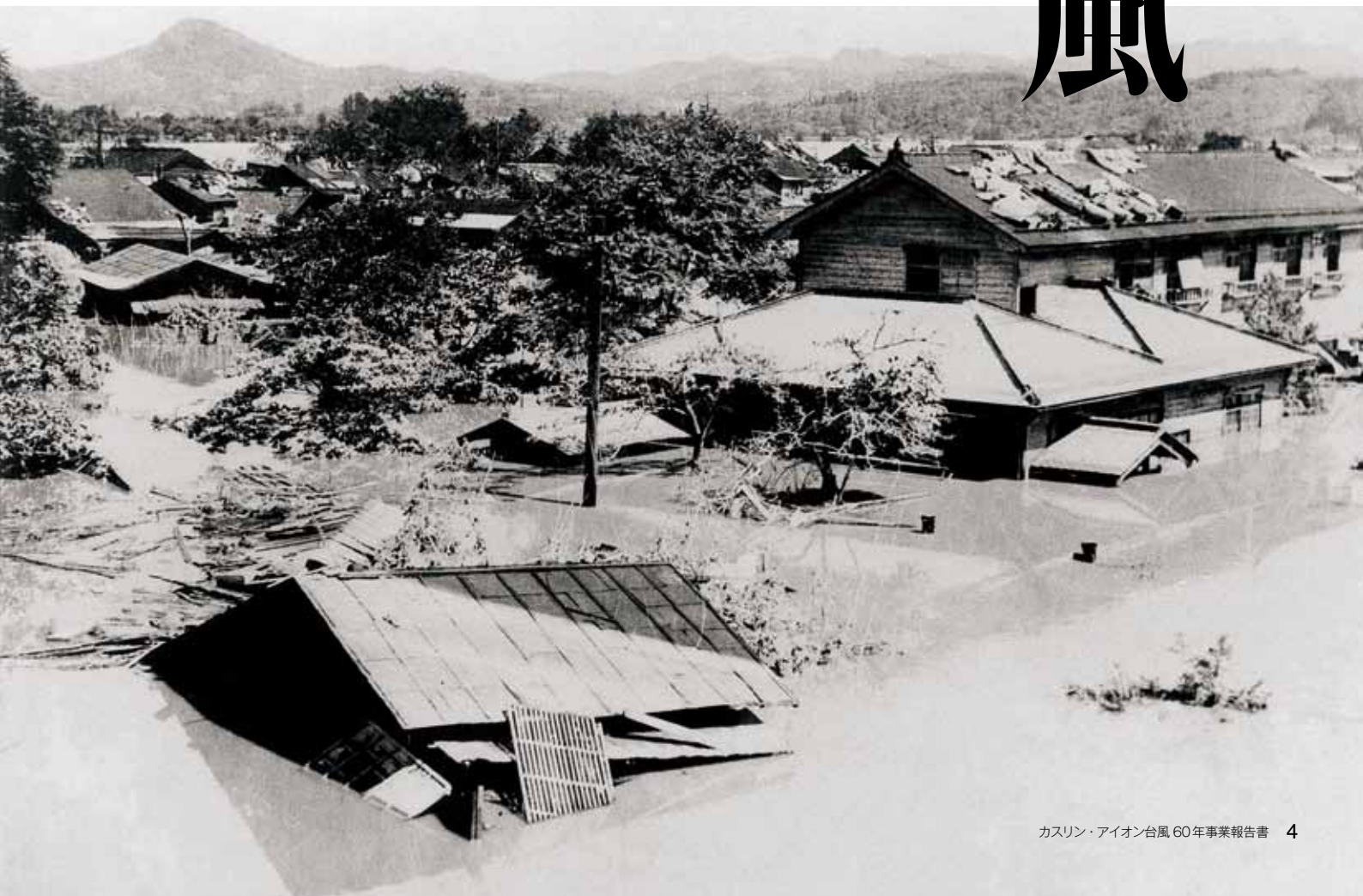
この年の岩手県は7月20日から24日にわたる第一次水害、8月1日、2日の豪雨という第二次水害のため、すでに2度の水害で堤防決壊182個所、破損114個所に及んでおり、台風の襲来時はまさに復興中だった。しかし、台風がもたらす豪雨による一関市の浸水、宮城県の大泉の破堤など、北上川流域はかつてない大洪水となった。

気象状況

昭和22年9月12日に発生したカスリン台風が小笠原西方を北上。同時期、秋田沖には停滞した低気圧があり、雨は断続的に降り始めていた。14日、台風が本土に近づくと、中部地方、関東地方の内陸に発生したほかの低気圧を吸収し、温暖前線は強くなった。一方秋田沖の低気圧も移動を始め、岩手県を通過。台風の湿った空気を加え大雨となった。

岩手県では14日午後2時10分から、豪雨が降り出した。最も

五十人町付近。浸水を逃れた屋根には、ふとんが敷かれている（一関市）



激しかったのは15日で、7時～9時と、15時～17時に猛烈な豪雨となった。16日午前2時30分まで豪雨は続き、台風はその後15日夜に房総半島の先端をかすめ、16日には三陸沖に抜けた。



台風経路図

降雨状況

カスリン台風時における降雨は北上川上流部で見ると奥羽山脈の東側斜面で、県南に多く降った。

被害が小さかった盛岡で集中豪雨に見舞われた15日には、午後4時半からわずか6時間で101㎜も降っている。この日の他の降雨量は、岩手山で159・4㎜、最も被害が大きかった一関は155・0㎜であった。

12日から15日までの4日間の降雨量は岩手山の429・6㎜を最高に、盛岡236・3㎜、花巻296・3㎜、厳美349・8㎜で、他もほぼ200㎜を超える大雨だった。1日の降雨量では宮城県の名取川支流北川笹谷の14日290㎜が最高値を記録した。


氾濫により家屋は水浸しに

現・大町。水が引き、2階に達するほどの堆積物の山（一関市）



カスリン台風による被害

被害項目		被　害
人的被害		**3,659人**
内訳	死　者	130人
	行方不明者	38人
	負傷者	3,491人
住家被害		**42,161戸**
内訳	全　壊	613戸
	流　失	455戸
	半　壊	2,028戸
	床上浸水	21,348戸
	床下浸水	17,717戸
非住家被害		**16,883棟**
被害額計※		**約54億円**

※このデータは、北上川流域市町村の推定値です。

台風の記録 ①

カスリン台風

出水状況

豪雨は急激な出水となった。一部で土砂崩れも起こり、北上川の本支流をはじめ、県内各地で大きな水害をもたらした。

最も激しい水位上昇があったのは一関市狐禅寺。14日には警戒水位（現在のはん濫注意水位）をすでに上回り、13時に5m、15日13時で7・53m、16日13時で17・31mと1日にして10m近く増水した。4時間後の17時には最高水位17・58mを記録し、それまでの最高記録であった明治43年の14・62mを突破した。

この洪水により県内全域に浸水被害が発生したが、岩手県内の死者130人に対し、一関の死者は100人を数えるなど、もっとも被害の大きかった地域となった。

昭和22年9月洪水氾濫図

●湛水面積	26,317ha
●氾濫原因	破堤、決壊、越水
●決壊ヶ数	1,037ヶ所
●浸水家屋	10,878戸

▲主要水位観測所　ダム（既設）　ダム(工事中)
◯雨量観測所　氾濫区域　河川
河川総覧論　昭和33年4月より



北上市（和賀郡内）

人的被害	死者6名 負傷者3名
住宅被害	流失14戸 全壊6戸 半壊38戸 床上浸水1,599戸 床下浸水1,432戸 非住家の被害81戸
農作物等被害	水稲冠水 3,280.9 ha 畑作物冠水 1,141.9 ha
農地農業施設被害	水田埋没 381.8 ha、 畑 埋 没 352.1ha
土木施設被害	堤防欠壊91ヶ所・2,898m 道路埋没26ヶ所・2,857m 道路流出89ヶ所・8,068m 橋梁流出95ヶ所・1,141m 橋梁破損23ヶ所・126m
林業関係被害	木材流出14,020石 林道の被害2,990m

矢巾町

旧堤防欠壊	240メートル(西徳田) 60メートル（高田）
家屋半壊	20戸
耕地埋没	3町
耕地流出	3町2反
損害額	7,800万円

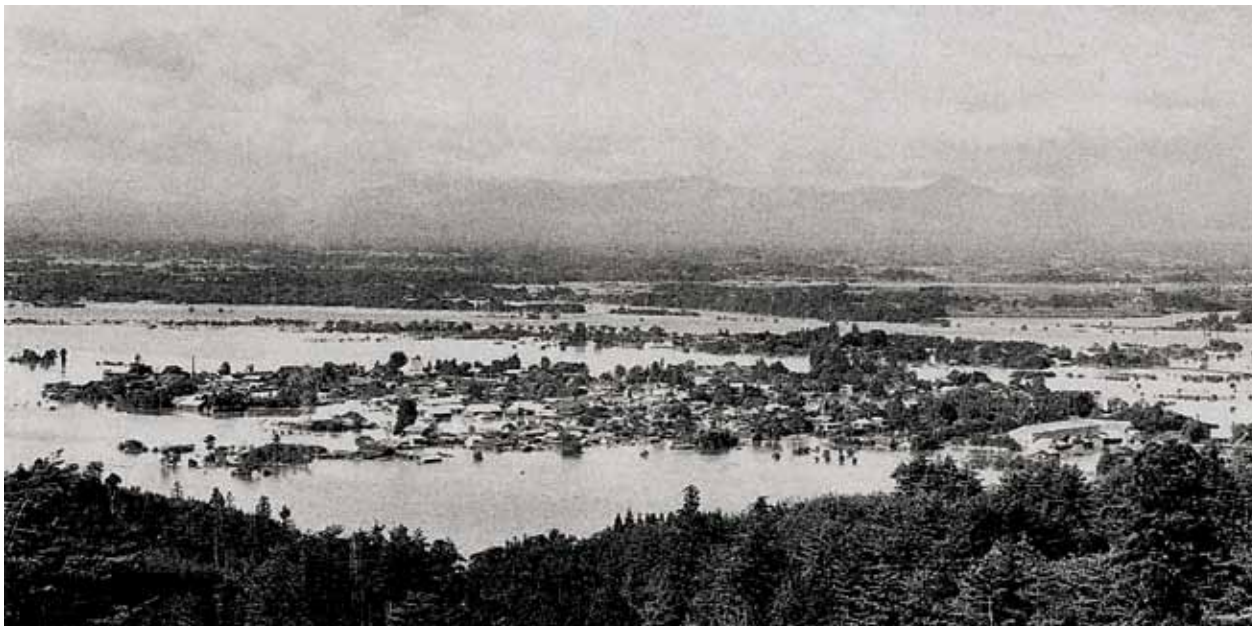
奥州市（姉体村）

浸水家屋	床上397戸、床下54戸
流失家屋	2戸
流出非住家	41戸
半壊家屋	2戸
半壊非家屋	8戸

一関市

死者	100名
行方不明者	—
り災者	21,725名
流失家屋	131戸
全壊家屋	200戸
半壊家屋	719戸
床上浸水	3,234戸
床下浸水	31戸
田畑の冠水	1,218ha
田畑の流出	218ha





当時の羽田村一帯の浸水の様子（旧水沢市）



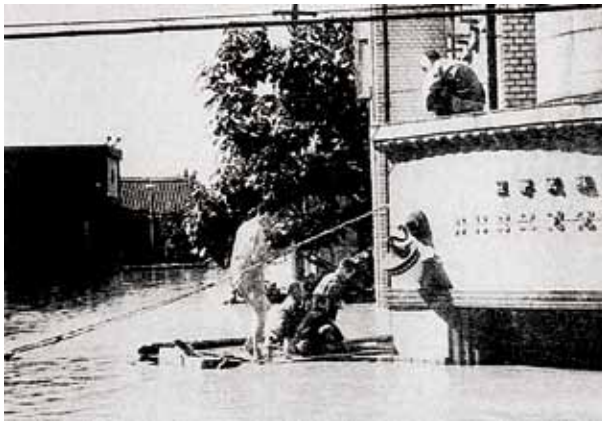
まだ幼い少女たちにも容赦なく天災はやってくる（一関市）



機織山から見た一ノ関駅。線路の先は水中にある（一関市）



家族で避難の準備をする市民（盛岡市）



現・一関信用金庫地主町支店。いかだが救助に来た（一関市）

台風の記録 ②

アイオン台風



昭和23年9月15日に中央気象台はアイオン台風の予報を発表。しかし、それは関東、東海道、近畿東部への予報で岩手県においては憂慮する状態ではなく、9月16日未明の降雨も少量であった。雨は午後3時から強烈な豪雨となり、夜になるにつれますます激しく、県下全域にわたって17日午前2時ころまで降り続いた。

前年のカスリン台風からちょうど1年というこの時期、再び襲った台風は、前年より雨量の連続総量は少なく水位も低かった。しかし、被害個所の整備も未完であった岩手県の被害は、カスリン台風をはるかに凌ぐこととなった。

気象状況

マリアナ東方海上から進んできたアイオン台風は16日3時には紀伊半島南方100km海上に達していた。

一方9月12日より、日本に向け移動しつづけていた低気圧が、15日に台風と合致。その後、北東へ移動し始めた。台風の東側の暖気は、低気圧の谷に急激に流入した。

15時ころには強力な寒気にはばまれたうえ、奥羽・北上両山脈の地形的な影響もあり、北は岩手県南部、西は宮城県中部に温暖前線を進めたまま停滞した。このため宮城から岩手にかけての帯状の狭い範囲が、記録的な豪雨エリアとなった。



台風経路図

アイオン台風は18時ころ伊豆大島から房総半島をかすめ、17日3時には宮古沖200km海上に達し抜けていった。そのコースは前年のカスリンとほぼ同じだった。


被害状況を伝える当時の新聞記事。



一関の地主町を屋根の上からと道路に立って撮影した写真。散乱しているのは洪水で流されていた漂流物（一関市）



ドラム缶や家屋が漂着した地主町（一関市）

降雨状況

狭い範囲への集中豪雨となったアイオン台風は、猿ヶ石川、磐井川、宮城の迫川・江合川で大洪水を引き起こした。15日の岩手県内の雨量は豊沢で90・0㎜、平舘で50・0㎜、千厩で29・6㎜の他は20㎜未満であった。これが16日になると、停滞した温暖前線によって、千厩で159・7㎜、石淵で284・8㎜、水沢275・2㎜と激しい降雨となった。南部が大雨の中、北部は盛岡が135・2㎜、平舘も62・0㎜と落ち着いていた。

一関では、15日は7・0㎜、16日は150・6㎜、そして17日245・6㎜の最高雨量を記録。前日トップだった石淵などは17日には3・8㎜だけというように、おおかた雨があがっている中、一関だけが特異な降雨量となり、15日から17日にかけてトータルで403・2㎜と記録的な豪雨となった。

アイオン台風による被害

被害項目		被　害
人的被害		**1,203 人**
内訳	死　者	393 人
	行方不明者	316 人
	負傷者	494 人
住家被害		**33,646 戸**
内訳	流　失	1,343 戸
	焼　失	15 戸
	全　壊	1,053 戸
	半　壊	1,304 戸
	床上浸水	15,774 戸
	床下浸水	14,157 戸
非住家被害		**10,219 棟**
被害額計 ※		**約 128 億円**

※このデータは、北上川流域市町村の推定値です。

台風の記録 ②

アイオン台風

出水状況

アイオン台風の豪雨は、その範囲こそカスリン台風より狭かったが、岩手南東部から宮城県内陸に帯状に記録的な豪雨地帯ができた。

16日の段階で既に5mを超す水位が記録されていた一関の狐禅寺観測所であるが、18時から20時までの間に1時間あたり約2mずつ水位が急上昇した。この急な増水は、一関付近の豪雨により磐井川が山津波によってせき止められ、それが急激な出水となったことにより、濁流が再び街を襲ったことを表している。

昭和23年9月洪水氾濫図

●湛水面積	35,011ha
●氾濫原因	破堤、決壊、越水
●決壊ヶ数	1,356ヶ所
●浸水家屋	18,232戸

▲主要水位観測所　ダム（既設）　ダム(工事中)
◯雨量観測所　氾濫区域　河川
河川総覧論　昭和33年4月より



矢巾町

旧堤防欠壊	261メートル(西徳田) 70メートル（高田）
浸水家屋	80家
耕地埋没	17町
耕地流出	5町
耕地冠水	32町
災害額	8,010万円

北上市（和賀郡内）

人的被害	死者5名 負傷者3名 行方不明1名
住家被害	流失15戸 床上浸水505戸 床下浸水703戸
農作物等被害	水稲被害面積 1,541.4ha

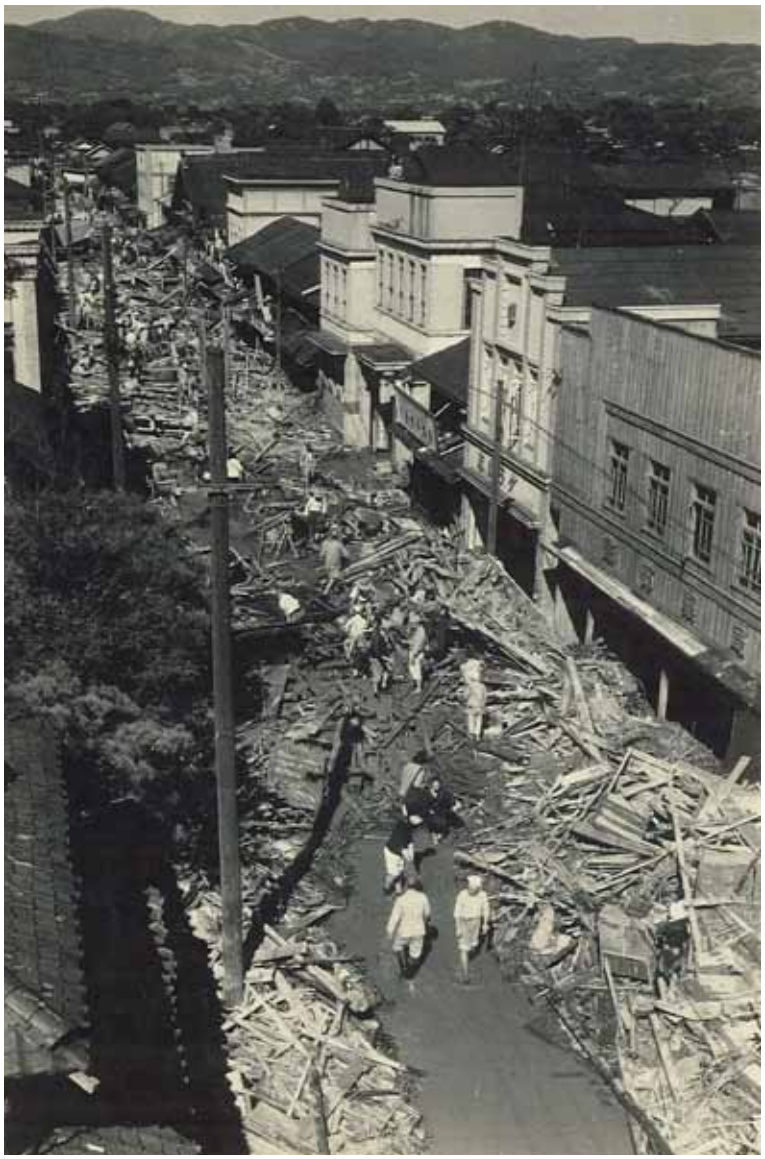
一関市

死者	234名
行方不明	239人
り災者	19,349人
流出家屋	468戸
全壊家屋	334戸
半壊家屋	901戸
床上浸水	1,837戸
床下浸水	334戸
田畑の冠水	1,860ha
田畑の流出	295ha

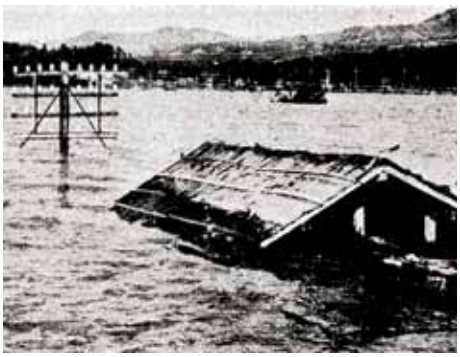
奥州市（姉体村）

浸水家屋	床上159戸 床下133戸
住家全壊	3戸・非住家全壊15戸
住家半壊	2戸・非住家半壊7戸
住家流出	1戸
耕地流出	26町1反
冠水	439町
堤防決壊	8ヵ所（645間）





大町通りの水が引いた後（一関市）



水面に顔を出すのは、屋根と電信柱のみ（旧衣川村）



上の橋ついに落橋（一関市）



減水した後は瓦礫の山が現れる（一関市）



D51 機関車が横転
左には線路まで流れてきた家が
（一関市）

水害体験談

●カスリン台風　佐々木 和夫さん

水害で変わり果てた一関に呆然と立ちすくむ。



▲カスリン台風時の磐井川、上の橋の様子。
何とか流されずすみました。



カスリン台風による水害が発生したのは、私が17歳のときです。当時、私は一関から盛岡の高校に進学していました。故郷の一関が大水害に遭っているとの情報を聞き、盛岡から県南へ向かう進駐軍のジープに乗って一関にかけつけたのは、9月17日のこと。すでに洪水の峠は越えていました。

私の実家は一関の中心部にあったため、幸いにして家が流されるなどの大きな被害はありませんでした。しかし、対岸の地域は、堤防が決壊したことでほとんどの家が流され、大惨事となっていました。この台風で亡くなった多くの人々はこの一帯に住んでいた人たちでした。堤防決壊の原因は、磐井川にかかる上の橋の橋脚に流木や土砂などが引っかかり、ダム化し市内に水が一気に流れ込んだことによるそうです。

また、カスリン台風の一番の恐怖は、北上川下流の狭窄部で流れが止まることによるバックウォーター現象でした。いわば、川が逆流し、あふれ出すようなもので、一関の町は徐々に水没し、増水の速度は、階段1段を1時間かけ上昇する程度だったようです。

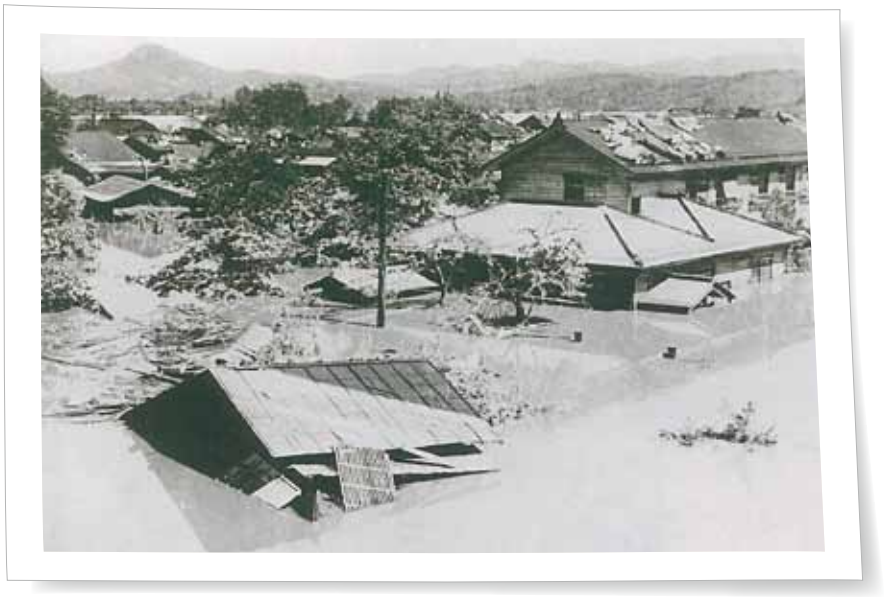
そのとき、私の母は一関市内の病院に入院していましたが、2階の病室ぎりぎりまで水がきたそうです。

災害は忘れたときにやってきます。過去の経験を忘れず、常に素早く避難することが、少しでも被害を免れる方法ではないかと思います。



●カスリン台風　千葉 登さん

近所の子供たちを屋根に上げ、水が引くのを待った。



▲浸水を免れた家の屋根には、ふとんなどの家財も運ばれました。



中学校2年生のとき、カスリン台風を体験しました。私たち家族が住んでいた地域一帯は昔から水害が多く、感覚的に慣れっこになっていました。大水で流れてきたスイカや材木などを拾って遊んだこともありました。ところがカスリン台風は様子が違いました。釣山下の上の橋で塞き止められた流れが堤防を突き破って一帯に流れ込んできたからです。

当時、私の実家は鉄工所を営んでおり、家が丈夫に作られていました。そのため近所の人たちが私の家の屋根に避難しました。みるみるうちに増えてくる水のなか、私も3回に分けて近所の子供たちを屋根に運び上げました。そのとき、「ここは自分の家だから離れるわけにはいきません」と、避難することなく流されていった近所のおばあさんの姿を忘れることができません。次第に水が勢いを増すなか、何とか私の家は流されずに済みましたが、近所の家のほとんどは流され、多くの人が磐井橋にぶつかって亡くなったと聞いています。

その後しばらくして水が引き、私たちはさらに高台にある避難所へと移動しましたが、今度は北上川の逆流で一関一帯が洪水被害に遭いました。

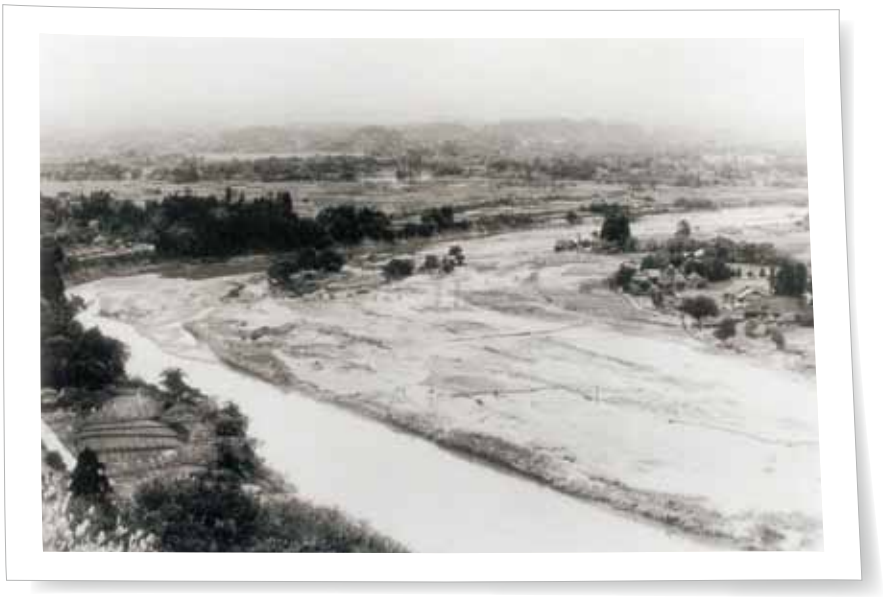
洪水を引き起こす原因は様々で今と昔をそのまま較べることはできないと思います。しかし、水害の恐ろしさだけは、生き残った者の役割として伝えていこうと考えています。



水害体験談

●アイオン台風　佐原 道啓さん

九死に一生を得て、逃げ延びた。





▲釣山から見る磐井川上流。川岸の家はほとんど流され、さら地と化した。

昭和23年9月16日。12歳だった私は、数日前から降り続く雨に不安でいっぱいでした。1年前の昭和22年に起こったカスリン台風で水害の恐ろしさを体験していたからです。父親も強まる雨の様子を心配し、「いつでも逃げられるようにしておけ」と家族に伝えていました。

早めに夕食を済ませ、2階で休んでいたときです。「水が入ってきたから逃げろ」という声を聞き、母と私を含めた6人の兄弟は家を飛び出しました。道路はすでに川のようでした。みんなで手をつなぎ、避難場所の集会所を目指したのですが、小高い所からあふれ出した水に行く手をさえぎられ、行き場をなくしました。

私たちは、集会所に行くことを諦め、無我夢中で高い場所を目指しました。そして1軒の家にたどりつくと、助けを求めました。家の人に避難させてもらったときは、助かった喜びで涙が止まりませんでした。

翌日、ようやく避難所に行ってみると、父、祖父母、叔父が大喜びで迎えてくれました。いくら探し回っても私たちの姿が見えないので、流されたものと悲しんでいたそうです。

今思えば、避難する際、もし兄弟の誰かが転んだりすれば、私たち全員一緒に流されていたことでしょう。そう思うと背筋が寒くなります。災害では予想もしないことが起こります。安全に避難するためには、いくつかの避難路を頭に入れておくことが大切だと思います。



●アイオン台風　熊谷 金壽（きんじゅ）さん

夜中、濁流に流される人の声を聞いた。



▲磐井橋から見た決壊した山目の堤防。



私の家では、父と兄、そして私と、合計で60年間にわたって、北上川の水位を観測する仕事を行ってきました。観測する場所は千歳橋上流で、普段であれば朝6時と夕方6時の2回観測します。水位が5mを越えると1時間おきに観測することが定められていました。

昭和23年の9月16日、私は当時10歳で、父が川の観測を続けていました。

数日前から雨が降り続いていたものの、夕方6時の水位はそれほどのものではありませんでした。しかし、午後8時までに突如として4m上昇し、午後9時になるとさらに倍ほどの水位に達しました。長い経験から洪水を予感した父は、近隣の人に報告したそうです。私の家は狐禅寺にあり、前年のカスリン台風では家の中が水浸しになる被害がありました。そこで、家財道具を2階に上げ、子供たちも2階でおとなしくしているように言われました。

夜になると磐井川の堤防が決壊し、それによって北上川まで流されてきた人々の、助けを求める声が聞こえてきたことを記憶しています。

水が引けた2日後、川に行ってみると、磐井川が北上川に合流する部分が大きくえぐりとられており、濁流の恐ろしさを改めて感じました。

水位観測を続けてきた経験を持ってしても、洪水を簡単に予測することはできません。危ないと感じたら、家族と一緒にすみやかに避難する。これが一番大切だと考えています。



北上川の洪水対策



四十四田ダム

不利な地形を高い技術ではねかえしたダム

北上川本流の上流部に造られたのが四十四田ダム。ダム建設地は、地形が悪く地盤が弱い上、川の水は強酸性で工事に使うことはできなかった。それらを克服するため、多くの特殊工法を採用して昭和43年(1968)に完成した。



田瀬ダム

5大ダム最大の容量をもつダム

猿ヶ石川に造られたのが田瀬ダム。着工は五大ダムで最も早い昭和16年(1941)だが、戦争で一時中断した。この間、カスリン・アイオン台風の被害にあい、工事再開時には計画が見直され、五大ダム最大の容量となった。

ダムの目的

洪水調節　発電
農業用水　水道水

北上川の洪水対策

北上川の洪水を防ぐために、国は二つの大きな事業を行っている。

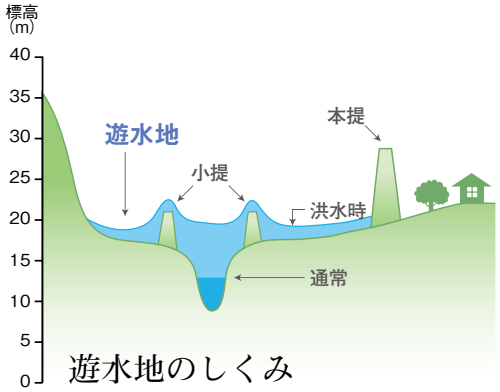
ひとつは、「北上川総合開発計画（KVA）」と名付けられた北上川の上流とその支流に大きなダムを作る事業である。石淵・田瀬・湯田・御所・四十四田に作られたダムは北上川五大ダムと呼ばれている。

ふたつめは、昭和55年から始まった一関遊水地事業である。これは、洪水の時に一関の市街地に水が押し寄せないように、田んぼの回りに大きな堤防を作り、水を貯めておく仕組みになっており、第1から第3まで3つの遊水地が整備されている。

一関遊水地の仕組み

一関遊水地は、広大な田畑を囲む堤防（周囲堤）と北上川のすぐそばにある堤防（小堤）の二段構えで水害を防ぐようになっている。

遊水地の中は、ふだんは稲作や野菜づくりに利用されている。そして、小さな洪水の時は小堤が田んぼに水があふれ出すのを防いでくれる。一方、大きな洪水のときは、遊水地は水に浸かってしまうものの、周囲堤で一関市街地を守る仕組みになっている。現在、周囲堤の工事はほぼ終わり、小堤の工事が始まっている。



遊水地のしくみ

北上川五大ダム

名称	所在河川	ダムの場所	完成年度	堤高	堤頂長
石淵ダム	胆沢川	奥州市胆沢区	昭和 28	53m	345m
田瀬ダム	猿ヶ石川	花巻市東和町	昭和 29	81m	320m
湯田ダム	和賀川	和賀郡西和賀町	昭和 39	89.5m	265m
四十四田ダム	北上川	盛岡市下厨川	昭和 43	50m	480m
御所ダム	雫石川	盛岡市繋	昭和 56	52.5m	327m
胆沢ダム	胆沢川	奥州市胆沢区	平成25(予定)	132m	723m

一関遊水地

広さ		設備	
第１遊水地	820ha	築堤	延長 28,200m
第２遊水地	470ha	水門	３カ所
第３遊水地	160ha	小堤	延長 18,200m
合計	1,450ha	管理用道路	延長 14,900m



御所ダム

温泉が間近にあるレジャーも楽しいダム

雫石川に造られたのが御所ダム。五大ダムの中では比較的新しく昭和56年(1981)完成。盛岡市の水道源であり、周辺市町村の農業用水としても利用されている。



湯田ダム

美しい形をした重力式アーチダム

和賀川に造られたのが湯田ダム。ダム建設のために水没した戸数は565戸、さらに鉄道と道路の付け替え工事も必要だった。多くの苦労を乗り越え、ダムが完成したのは着手後11年を経た昭和39年(1964)。



石淵ダム

日本初の表面遮水型ロックフィルダム

胆沢川に造られたのが石淵ダム。終戦直後の昭和21年(1946)に着工したため、材料のセメントが手に入らず、近くの山から採取した石を使った、日本初の表面遮水型ロックフィルダムとして建設開始した。現在はダムの下流に胆沢ダムを建設している。



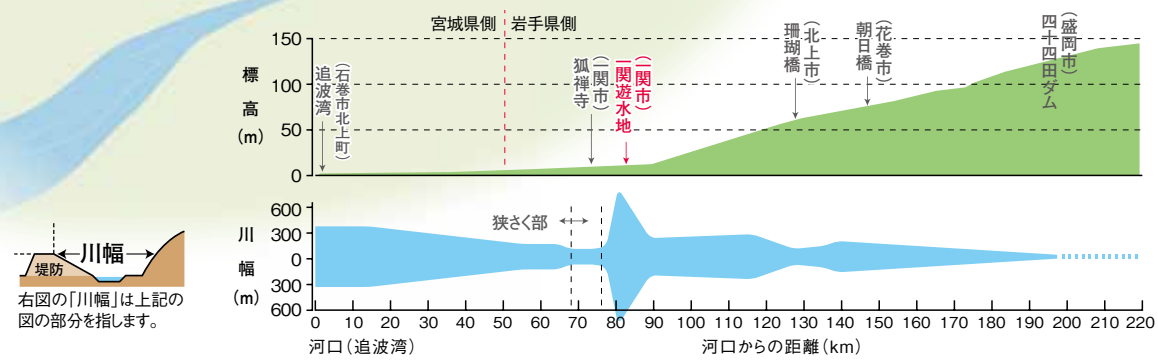
遊水地

一関遊水地

水をとどめて地域を守る

一関市の下流にある北上川狭窄部が引き起こす大雨の際の洪水から一関市街地を守るために整備されている。最も広い第1遊水地が820ha、第2遊水地は470ha、第3遊水地は160haで合計1450haの広大な面積を誇る。

北上川のこう配と川幅



右図の「川幅」は上記の図の部分を指します。

カスリン・アイオンから60年
水害はまだ無くならない

平成14年洪水

非常に強い台風6号は7月11日13時に岩手県にもっとも近づいた。梅雨前線の影響で、7月9日夕方から降り始めた雨は、その後7月11日の夜まで、岩手県ほぼ全域で降り続き、多いところでは1時間に35㎜の雨を観測し、総降水量220㎜を越える大雨となった。

北上川流域の2日間の流域平均雨量は、盛岡市の明治橋観測所上流で147㎜、一関市の狐禅寺観測所上流で158㎜を観測した。狐禅寺水位観測所においては最高水位13・51mを観測し、カスリン、アイオン台風に次ぐ戦後3番目の洪水となった。

この洪水により、死者2名、重軽傷者8名、全壊・半壊・床上・床下浸水家屋が3677世帯、農地冠水7042ha、避難者数約16000人という甚大な災害をもたらした。

平成19年洪水

停滞した秋雨前線と台風11号から変わった温帯低気圧の影響により、9月17日の未明から夜にかけて岩手県北部を中心に激しい雨が降り続いた。総雨量は奥羽山脈の観測所で300㎜超を記録。中でも、盛岡市明治橋の上流における流域平均雨量は2日間で208㎜に達し、同域の降雨量としては戦後最大となった。

この大雨の影響により、北上川本川の6つの観測所（館坂橋、紫波橋、朝日橋、男山、桜木橋、諏訪前の観測所）ではん濫危険水位を超えた。特に、紫波橋水位観測所では18日1時に最高水位5・37mとなり、計画高水位（5・504m）に迫る勢いだった。

北上川沿川においては、約340戸の床上・床下浸水被害が発生。農地を含め2、994haが冠水、避難者約1、630人という大規模な洪水被害となった。

これまでに起きた主な洪水

洪水が発生した年月	大雨の原因	狐禅寺上流で2日間に降った平均雨量(mm)	最高水位（m）								
			館坂橋（盛岡市）	明治橋（盛岡市）	紫波橋（紫波町）	朝日橋（花巻市）	男山（北上市）	桜木橋（奥州市）	大曲橋（奥州市）	狐禅寺（一関市）	諏訪前（一関市）
昭和22年9月	カスリン台風	187	—	4.52	6.32	6.87	—	6.25	7.53	16.89	—
昭和23年9月	アイオン台風	161	—	3.54	—	5.52	6.77	6.36	—	14.89	14.50
平成14年7月	**台風**	**160**	**2.72**	**2.26**	**4.73**	**5.42**	**5.22**	**5.50**	**6.21**	**13.51**	**11.51**
平成19年9月	**前線**	**173**	**2.88**	**2.54**	**5.37**	**5.79**	**5.40**	**5.65**	**5.79**	**12.38**	**10.18**

※水位は全て現在の観測所での読み値に換算。


旧川崎村如来地地区（平成14年洪水）


平泉町長島地区 高館橋付近（平成19年洪水）


旧衣川橋左岸上流 内水排除作業（平成19年洪水）



一関市北上大橋付近



花巻市石鳥谷町



被災直後の状況　磐井川に発生した市野々原地区の河道閉塞

アイオン台風から60年
一関は再び
土石流被害の危機に

地震が作り出した「天然ダム」

平成20年6月14日8時43分ごろ、岩手県内陸南部の深さ約8㎞の地点でマグニチュード7・2の岩手・宮城内陸地震が発生し、岩手県奥州市や宮城県栗原市で震度6強、大崎市で震度6弱、その他の周辺市町村では震度5強を観測した。

震源が山間部に位置していたことなどから、過去に発生した大地震（阪神・淡路大震災や新潟県中越地震）と比べて建物被害が極端に少なかったが、時間が経過するにつれ、新たな問題が浮上した。

国土交通省の防災ヘリによる被災状況調査の結果、地震発生の翌日には岩手県の磐井川流域には5箇所、岩手・宮城の両県併せて15箇所の河道閉塞（天然ダム）が発見された。岩手県知事からの要請に基づき、岩手河川国道事務所ではこのうち緊急度の高い市野々原地区には排水ポンプの敷設・仮排水路の掘削などで中小洪水への緊急対策を、また産女川地区には河道閉塞への緊急対策として除石工を実施すべく、地震発生に3日後の17日から工事に着手した。

かつて、アイオン台風による降雨等の影響により、磐井川流域には高さ5ｍ以上の崩壊が739箇所で発生。樹木や土砂が押し流される山津波となって磐井川を流下した。こうした過去の傷ましい記憶の残る一関市民にとって、磐井川上流に発生した河道閉塞対策は一刻の猶予も許されない、喫緊の課題だった。

市野々原地区の仮排水路は、出水期でも対応できるように拡大する工事が7月5日に終了、産女川地区の除石工も11月末で完了し、一関に迫っていた土石流の危機を無事回避することとなった。



アイオン台風発生時の磐井橋
洪水により家屋や上流の上の橋は流失



❶祭畤大橋の落橋



❷槻木平河道閉塞



❸市野々原地区河道閉塞



❸市野々原仮排水路作業



❹産女川河道閉塞と土石流の流下



岩手県・宮城県内の一般被害

	人的被害（人）				住家被害（棟）			非住家被害
	死者	行方不明者	重傷	軽傷	全壊	半壊	一部損壊	
岩手県	2	0	9	28	2	4	763	245
宮城県	10	8	54	311	28	141	1,616	47
合計	12	8	63	339	30	145	2,379	292

各観測地点の震度分布図（気象庁）



伝えよう！
カスリン・アイオン台風60年
忘れまい！先人達の努力と勇気

カスリン・アイオン台風60年事業

カスリン・アイオン台風 60年事業実行委員会

【団体・機関名】

- 北上川上流改修期成同盟会
- 一関遊水地事業促進協議会
- 一関市北上川治水地権者会
- 一関商工会議所
- 川崎町商工会
- NPO 法人　北上川流域連携交流会
- NPO 法人　災害サポーターシステム岩手
- NPO 法人　北上川サポート協会
- （社）東北建設協会
- みんなでミュージカル実行委員会
- 巌手一関龍馬会
- 北上川リバーカルチャーアソシエーション
- 岩手県　県土整備部
- 東北地方整備局岩手河川国道事務所
- 東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所
- 東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
- 北上川流域市町村連携協議会
- 一関市

【設立趣旨】

昭和 22 年 9 月のカスリン台風、昭和 23 年 9 月のアイオン台風により北上川とその支川が氾濫し、岩手県内は 2 年連続の大水害に見舞われました。中でも一関市は、磐井川堤防の決壊により未曾有の大被害を受けました。2007 年、2008 年にカスリン・アイオン台風から 60 年の節目の年を迎えるにあたり、当時の水害を風化させることなく後世に伝えていくとともに、学んだ教訓を生かし、災害に強い地域社会をどのように構築を目指して「カスリン・アイオン台風 60 年事業実行委員会」を設立しました。





60 年事業チラシ

カスリン・アイオン台風60年事業行事

カスリン・アイオン台風により多大な被害を受けてから60年となる平成19年、20年。当時の水害を風化させることなく後世に伝え、学んだ教訓を生かし、災害に強い地域社会をつくることを目指し、様々な機関が多種多様な事業を展開しました。

実施時期	事業名	場所	団体機関名	
〈平成19年〉				
3月17日	カスリン・アイオン台風60年記念植樹開始式	あいぽーと	日本一の桜並木をつくる会	 カスリン・アイオン台風60年記念植樹
4月1日～5月31日	企画展「あの時を忘れない嵐の記憶（昭和22年・23年9月）」	あいぽーと	岩手河川国道事務所（あいぽーと）一関市	
4月～10月	カスリン・アイオン洪水ビデオ上映	胆沢ダム学習館	胆沢ダム工事事務所	
4月29日	北上川さくらウォーク	あいぽーと	厳手一関龍馬の会	
4月25日	忘れまい！先人達の努力と勇気	奥州市前沢区白山	白山地区被災者代表	
5月～	啓発用ステッカー作成配布	タクシーや飲食店に配布	一関商工会議所	
5月～	一関蔵ホテルパネル展示	蔵ホテル一関	蔵ホテル一関	
5月（1ヶ月）7月（2日間）	カスリン・アイオン洪水写真パネル展	胆沢ダム学習館	胆沢ダム工事事務所	
5月19日	カスリン台風60年北上川流域一斉清掃	北上川流域（岩手町～一関市）	岩手河川国道事務所	
5月23日	あの時を「語る会」「残す会」第1回テーマ「大洪水の状況を語る」	江刺区愛宕地区センター	江刺区愛宕地区振興会他	 啓発用ステッカー作成配布
5月26日	錦秋湖湖水まつり（カスリン・アイオン台風によるパネル展開催）	湯田ダム	北上川ダム統合管理事務所	
5月29日	講演会の開催一関商工会議所60周年記念講演	ダイヤモンドパレス	一関商工会議所	
6月2日	一関市水防訓練（北上川下流水防演習と連携）	一関市狐禅寺	岩手河川国道事務所、北上川下流河川国道事務所、一関市	 あの時を「語る会」「残す会」（江刺区愛宕地区センター）
6月24日	狐禅寺水位観測員からみたカスリン・アイオン台風水害	あいぽーと	岩手河川国道事務所（あいぽーと）	
6月26日	あの時を「語る会」「残す会」第2回テーマ「高野俊治と堤防構築について」	江刺区愛宕地区センター	江刺愛宕地区振興会他	
6月30日 9月17日 12月9日	水害語り部教室	あいぽーと	岩手河川国道事務所（あいぽーと）	
7月2日～8月31日	カスリン・アイオン台風洪水写真移動パネル展	県庁・県内地方振興局	岩手県	 一関市水防訓練
7月22日	水害を忘れない地域活動 河川清掃・草刈り・記念植樹・一握り築堤	砂鉄川堤防	砂鉄川土地利用組合	
7月28日～29日	田瀬ダム（カスリン・アイオン台風）パネル展	田瀬ダム	北上川ダム統合管理事務所	
7月下旬～8月上旬	県営ダム施設一般開放 パネル展示・ダム施設見学	県営ダム（綱取、滝、早池峰、入畑、日向、鷹生）	岩手県	
8月	県土整備部河川課長ひざづめトーク 洪水ビデオ上映、講演、意見交換	地方振興局大会議室、地区公民館等	岩手県	 浸水表示板設置・除幕式（一関商工会議所）
8月1日	忘れまい！先人達の努力と勇気	奥州市前沢区白山	白山地区被災者代表	
8月～12月	水害かるた作成	あいぽーと	あいぽーと	
8月10日～16日	みんなで楽しむ盛岡舟っこ流し（北上川パネル展）	盛岡市内	NPO法人アイディング	
8月20日	浸水表示板設置・除幕式	一ノ関駅周辺	60年実行委員会、一関商工会議所	
8月～9月	カスリン・アイオン洪水写真パネル展	胆沢ダムダムサイト	胆沢ダム工事事務所	
8月末	水害DVD作成	一関市内	一関商工会議所	 江刺区防災訓練
9月	カスリン・アイオン台風体験集（リニューアル版）作成	奥州市羽田地区	奥州市羽田振興会	
9月9日	江刺区防災訓練	江刺水辺の楽校	奥州市ほか	
9月10日～21日	洪水写真パネル展	奥州市立愛宕小学校	岩手河川国道事務所	

実施時期	事業名	場所	団体機関名	
9 月 11 日	カスリン・アイオン台風 60 年の想い出を語る会	姉体公民館	60 年事業実行委員会	
9 月 15 日	カスリン・アイオン台風 60 年治水大会	ベリーノホテル一関	東北地方整備局 60 年事業実行委員会	
9 月 16 日	とうほく☆地域を守る防災コンテスト	一関文化センター	岩手河川国道事務所他	
9 月 16 日	水害ミュージカル「今伝えよう一関の年輪」	一関文化センター	みんなでミュージカル実行委員会	
9 月 27 日	子供たちに洪水体験を聞かせる会	奥州市立白山小学校	大曲の水辺に夢をつくろう会	
9 月 29 日 ～ 30 日	カスリン・アイオン台風パネル展示	イオン盛岡 ショッピングセンター	岩手河川国道事務所	
10 月 27 日	学習発表会～災害に負けなかった人々～	奥州市立愛宕小学校	奥州市立愛宕小学校	
10 月 27 日	羽田地区自主防災避難訓練	奥州市羽田地区	奥州市羽田振興会	
10 月 30 日	「北上川の洪水を考える」講演会	盛岡市内（ホテルルイズ）	NPO 災害サポーターシステム岩手	
11 月 7 日	東北治水大会	メトロポリタン盛岡 ニューウイング	岩手県	
11 月 3 日	洪水写真パネル展	姉体公民館	姉体公民館	
12 月 1 日	カスリン 60 年事業活動報告（おうしゅう環境フォーラム 2007）	奥州市	大曲の水辺に夢をつくろう会	
12 月 9 日	カスリン・アイオン台風を語る会	上姉体分館	上姉体町内会	
12 月 21 日	痕跡水位表示板設置	前沢地区 3 箇所	前沢南地区自治振興会	
〈平成 20 年〉				
1 月	カスリン・アイオン台風 60 年の想い出を語る会の記録映像製作		60 年事業実行委員会	
1 月 12 日	水害かるた大会	あいぽーと	あいぽーと	
1 月 20 日	北上川流域等の児童・生徒交流会 被災状況パネル展及び説明、水防工法体験ほか	北上川交流センター	一関市消防本部	
2 月 7 日～ 22 日	一関市役所職員に対する水防研修	一関市役所	一関市消防本部	
2 月 19 日 3 月 18 日				
3 月 25 日	砂鉄川座談会	川崎防災センター	一関市 岩手河川国道事務所	
4 月 14 日～ 5 月 30 日	カスリン・アイオン洪水写真パネル展	県内 9 箇所	岩手河川国道事務所	
4 月 6 日	桜植樹	一関市釣山公園	巌手一関龍馬会	
4 月 19 日	北上川さくら植樹事業	あいぽーと北部周囲堤	北上川リバーカルチャー アソシエーション	
4 月 19 日	アイオン台風 60 年北上川流域一斉清掃	北上川流域 （岩手町～一関市）	岩手河川国道事務所	
4 月 26 日	カスリン・アイオン台風パネル展（四十四田ダム見学会）	四十四田ダム	北上川ダム統合管理事務所	
4 月 30 日	学ぼう！水害守ろう！いのち カスリン・アイオン台風が教えてくれること～ 一関の未来を考えるために～ ※カスリン・アイオン台風と復興の歴史を子供たちに伝える冊子		岩手県建設業協会一関支部	
5 月 24 日	カスリン・アイオン台風パネル展（錦秋湖湖水まつり）	西和賀町川尻地区	北上川ダム統合管理事務所	
5 月 31 日	北上川上流水防演習	花巻市北上川右岸河川敷 （朝日橋下流）	北上川上流 16 市町村 岩手県、東北地方整備局	
6 月 1 日	稲瀬地区防災訓練	稲瀬地区農村広場	稲瀬地区防災訓練実行委員会	
6 月 19 日	あのときを「語る会」「残す会」の開催	江刺区愛宕地区センター	江刺愛宕地区振興会	
7 月 18 日～ 25 日	カスリン・アイオン台風 60 年事業洪水パネル展	大船渡地方振興局 （海フェスタ）	岩手県河川課	
7 月 20 日	カスリン・アイオン台風パネル展 （親水レクリエーションこけら落とし）	西和賀町耳取地区	北上川ダム統合管理事務所	
7 月 27 日	カスリン・アイオン台風パネル展 （北上川ゴムボート川下り大会）	四十四田ダム（出発地点）	北上川ダム統合管理事務所	
7 月 27 日	カスリン・アイオン台風 60 年事業洪水パネル展	鷹生ダム（五葉湖畔の集い）	岩手県河川課	
7 月	水害を忘れない地域活動 河川清掃・草刈り・記念植樹・一握り築堤	砂鉄川堤防	砂鉄川土地利用組合	
8 月 20 日	水難物故者追悼法要・流灯会	一関市川崎町	かわさき夏まつり実行委員会	
9 月 6 日	浸水位表示板設置	道の駅かわさき	60 年事業実行委員会	
9 月 12 日	水害語り部教室	中里中学校	あいぽーと	
10 月 5 日	一関市水防訓練	一関市狐禅寺	一関市	


カスリン・アイオン台風 60 年の想い出を語る会（姉体公民館）


「北上川の洪水を考える」講演会（白山小学校）


カスリン・アイオン台風を語る会（上姉体分館）


痕跡水位表示板設置（前沢地区）


アイオン台風 60 年北上川流域一斉清掃


カスリン・アイオン台風パネル展（錦秋湖湖水まつり）


カスリン・アイオン台風 60 年事業洪水パネル展（五葉湖畔の集い）


水害語り部教室（中里中学校）

カスリン・アイオン台風60年治水大会
～防災・減災対策を考える～

実施要項





●開催日時　平成19年9月15日（土）
13：00～17：00
●開催場所　ベリーノホテル一関

カスリン・アイオンの両台風により一関市は磐井川堤防の決壊により未曾有の大被害を受けた。

また近年でも、平成10年8月、14年7月洪水では、支川砂鉄川をはじめ、全川にわたって大きな被害が発生している。しかし、これらの再度災害防止のための治水対策については未だ不十分な状況にある。そのため、当時の水害の歴史を振り返り風化させることなく後生に伝えていくとともに、学んだ教訓を生かし災害に強い地域社会をどのように構築していくかを一般市民の方々と考える機会として、60年事業のメイン事業「カスリン・アイオン台風60年治水大会」を開催した。

当日は800人を越える一般市民にご参加いただき、記録DVDの上映や、毛越寺による物故者供養（延年の舞「老女」）、「防災・減災を考える」をテーマとしたパネルディスカッション、水害体験発表、安全・安心に向けた次世代へのメッセージなどを通じて、今後の防災・減災対策のあり方について様々な意見交換がなされた。

パネルディスカッション・出演者



●コーディネーター
平山 健一
岩手大学 学長



●パネリスト
達増 拓也
岩手県知事



●パネリスト
浅井 東兵衛
一関市長



●パネリスト
首藤 伸夫
日本大学大学院総合科学研究科教授



●パネリスト
佐藤 晄僖
一関商工会議所 副会頭



●パネリスト
門松 武
国土交通省 河川局長

●平山氏　毎年繰り返される災害、そして最近の異常気象等々、水害に耐えられない社会の形成が進んでいるが、災害は必ずどこかで起こり、誰かが被災する。それを最小限に防ぐためにはどうしたらいいか、どのように我々は機能分担をしてそれを果たしていったらいいのかについて考えたい。

●浅井氏　私はカスリンの時は一関にいなかったがアイオン台風の時は一関におり、祖父母や姉、妹とともに、家屋の2階まで浸水被害にあうという経験をした。

　その後、当市では毎年のように水害には見舞われている。特に平成14年7月の台風6号でカスリン・アイオン台風に次ぐ戦後3番目の大規模な洪水となり、北上川支流の砂鉄川流域の旧東山町、旧川崎村が甚大な洪水被害を受けたが、国・県により砂鉄川緊急治水対策事業が実施され、平成17年に直轄区間が概成している。

●佐藤氏　私も小学校に上がる前後にカスリン・アイオンを経験した。私の家は磐井川のすぐそばにあったが、その大きな石蔵の堤防側は流木で破られて人の背丈より高いぐらい流木がたまった。水害の後、薪として使ったが私が中学生になるぐらいまで使っていたと記憶している。

　商工会議所はカスリンとアイオンの間に設立され、今年60周年を迎えたが、過去の記録を調べると、カスリン・アイオンの直後に水害復旧運動を開始しているし、その後も復旧事業としての多灯式街路灯の点灯式や水難物故者鎮魂の意を込めた磐井川の花火大会等を開催してきた。またカスリン・アイオン台風60年にあたっては冒頭ご覧頂いたDVDの作成や水位痕跡版の表示などに取り組んでいる。

　人の作った構造物というのはいつか壊れることがあるため、より高い安全を求めると同時にいざというときに自分たちが災害にどのように対応するか振り返ることが大事。

●門松氏　私はカスリン台風と同じ年の生まれ。カスリンの頃が治水事業の転換期で以後全国的に直轄事業が実施されてきており、これまで約70兆円ぐらいの投資がなされたが、北上川については一関遊水地の小堤ができていないためこれからも投資が必要。

　日本全体で見ると、洪水による浸水面積は着実に減少しているが、資産の集積により被害額は増大している。今カスリン台風と同規模の出水があった場合、これまでの治水事業の効果により浸水戸数は当時の約6万4千戸から1万1千戸に減少するが、まだ対策が不十分と感じている。

　治水対策が進められると住民の方々は安心するが、施設ができて究極の安心安全が確保されるわけではなく、最後やはり安心・安全に対する意識がいかに持続的に住民の心の中に存在するかどうかが、一番大事なことであると感じる。

●達増氏　9月2日に知事就任後初めて県の防災訓練を主催して、改めて防災の大切さ、また防災意識を醸成、喚起する運動の大切さを感じた。

　カスリン・アイオン台風やその後県土を襲った数多くの水害を踏まえて、国や県などが災害防止事業の実施や、計画的な治水対策として県内各所で河川改修事業、ダム建設事業を進め、洪水被害の最小化に努めている。

●首藤氏　昔は自分の力で防災をする「自助」中心だった。1960年頃を境に都市化が進展。特に住民の自分たちのことを自分たちで守ろうという意識が薄れ、プロ任せにするという「心の都市化」が進展した。

　しかし阪神・淡路大震災の際に公助の限界があることがわかり、それを教訓に、現在は公助を当てにせず皆で助

け合う「共助」にすべきだというようにだんだん変わってきている。

●門松氏　河川行政を取り巻く環境は極めて厳しい。まず近年局所的な豪雨が明らかに増大傾向にあるという自然環境の変化がある。

それから、水防団の高齢化や地下空間利用を始めとする都市構造の高度化、厳しい予算削減傾向という社会的な状況の変化がある。

水害を完全にゼロにすることは困難であるから、これからは川の中だけの治水をやめ、流域全体で治水を考える必要がある。具体的には、土地の利用規制や輪中堤の整備、道路管理者など他事業との調整が考えられるが、こうした施策は河川管理者だけでは実現不可能であり、主役は市町村長。まさに治水対策は総合行政で対応しなければならない。

●達増氏　岩手県の河川整備率は、全国平均が58％であるのに対し47・1％と、全国平均に比べ10％以上も低い。

県としては、今後も事業の推進を図るとともに、市町村による洪水ハザードマップの作成を促進、住民に対する迅速かつ的確な洪水情報提供の実施、また水防活動を行う必要があることを市町村に警告するため、砂鉄川など13河川を水防警報等指定河川として指定している。このように、ハード整備に加え、県民に災害時の危険度を知らせ、不測の事態に対応する備えと避難を確実にするソフト対策の充実が必要となる。

また、水防団の現状として、団員の確保や水防技術の維持継続ができないなどの課題が出ているが、こうした課題に対して、まず地域防災力を高めていく施策が必要。まず第1に、ハード整備やソフト対策の充実を図り、効果的な災害予防対策の推進を図ること。第2に、防災教育や啓発事業等による地域住民の防災意識の高揚を図ること。第3には、自主防災組織のリーダー育成や防災関係機関との連携強化により地域防災力の充実強化を図ること。そして第4に、市町村職員や消防団員などの初動態勢強化、実践的訓練による職員の資質向上や災害対策本部の機能強化等による災害対応力の強化を図ることが重要。

●浅井氏　一関遊水地は整備途上段階であるが、周囲堤の概成により確実に治水効果が発現されている。また昨年度から小堤に着手していただいたが、これが完成していれば先日（9月7日）の洪水では水田が冠水しなくて済んだ。この小堤に加え、磐井川の堤防改修など大きな課題に取り組まなければならない。

市としては、防災体制の確立を図るうえで本庁支所の災害に対する機能強化が重要であると認識をしており、今後もさらに災害対策の強化を図りたいと考えている。

また、官民一体となって水防体制の推進に取り組んでいくとともに、水防倉庫などの施設や水防工法に使用する各種水防資機材の整備充実などを図る。

●佐藤氏　個別企業については、危機管理がまだ十分ではなく、地域とのかかわりや災害のときの対応を課題として取り上げなければいけない。

また、経済団体としては、経済活動を円滑に行われるのは災害のない状況が前提になりますので、そのための経済環境への働きかけや、傘下の個別企業に対して危機管理の重要性を呼びかけていきたい。

特に磐井川堤防改修を契機にＪＲ橋梁の嵩上げの必要が生じるが、それと併せてＪＲ在来線の高架化やそれに伴う駅前の一体的な整備を考えたい。

●門松氏　治水と環境は分けて考えるのではなく、護岸1つにしても、生物への配慮など、環境についても考えて設計をしなければならない。河川法が改正されて10年以上たつが、治水・利水・環境という3つの大きな柱をどうやって総合的に実現するか、様々な方のご意見を賜りながら取り組んでいきたい。

●首藤氏　人間のつくった構造物は、いつか自然の力に負けることを我々は認識して生活しなければならない。

洪水ハザードマップがどんどん作られているが、堤防などで守られて丈夫に見えても１００％安全であるということを保障しているのではなく、危険なところは危険と言わなければいけない。それから、危険なところをつくり出してはいけない。

開発をして街にすると生活が安楽になる。環境をきれいに保つと安心して住める。防災、ハード整備とソフト対策をきちんとやると安全になる。この安楽・安心・安全の3つのバランスをうまくとりながら、今後のインフラ整備を実施する必要がある。

防災をきちんとやるために、「共助」が必要となる。災害のときだけうまく機能する人間関係などは存在しないので、日常生活の中で、災害に対する知

識や経験を次世代に伝えていく取り組みを通じて、地域社会での人間関係の絆の強い社会をつくっていけば、災害に強い地域になる。

●門松氏　人間がつくった計画を過信してはいけない。防災を考慮したまちづくり・都市づくりというのを是非みなさんで考えてほしい。

●平山氏　自然のあるがままに人が生きれば災害は起きないけれども、戦後、経済発展・復興のための努力をしてきた中で、川に負荷をかけ過ぎてきたという一面は否めない。そういう中で、国は堤防やダムができれば安全だといい、国民もそれを信じてきた一面がある。

一方、川の役割を考えると、遊水地事業の工事の際に発見された柳之御所遺跡が世界遺産登録に結びついているなど、文化・治水・利水・環境というのは一体のものだと強く感じる。

川に行って川を理解する、川を愛する人が増えない限り、川の持つ機能も十分に満足できないものである。川を見て、川を体験して、川で遊んで、そういう人間、そういう子供をふやしていくことが過去の方の努力や勇気を忘れないためにも一番大切なことではないかと本日感じた。

治水大会の模様

治水大会

水害体験談に聞き入る

カスリン・アイオン台風で水害を実際に体験された金森三郎氏に体験談をお話しいただいた。

アイオン台風体験時、氏は23才。流されるとは想像もしなかった大きな家とともに流出した。「乗っていた座敷がバラバラになり、すぐに壊れた別の材木に移って流された」「一関市中心部の火事がだんだん小さくなった。火事が消えたのではなく、自分たちが遠くに流されたと分かった」そして、「運良く、北上川の本流に出る直前の鉄筋コンクリートの塔に行き当たり、それにすがって一夜を明かして救助された」と、思い出を振り返りながら、水害の恐ろしさを知らない世代へと伝えていく必要性を訴えた。



体験談を発表する金森三郎氏

治水大会

感謝状を贈呈

カスリン・アイオン台風60年事業実行委員会より、同台風被害や復興の記録・記憶を後世に伝える活動をしてきた方々に対し、その多大な功績を讃え感謝状の贈呈した。

写真家の横田実氏は両台風の被害状況と復興の歴史を撮り続け、災害後60年を経た今でもその記憶を風化させることなく後世へ伝える資料を残された。また、「みんなでミュージカル実行委員会」はカスリン・アイオン台風の大水害や復興の実話を基に、命の大切さや困難を乗り越えて復興に立ち上がった市民の勇気と未来への願いをテーマとした市民ミュージカル「一関の年輪」を上演した。その功績に対し、会場から惜しみない拍手が贈られた。



感謝状贈呈の様子

オープニング

DVD「水が伝える物語 ～カスリン・アイオン台風の思い出～」の編集

大会の冒頭では一関商工会議所が、節目となる60年目の前年に制作したDVD「水が伝える物語　～カスリン・アイオン台風の思い出～」を2007年を上映した。

DVDの内容は、当時の写真や資料をたどり、水害から復興までの様子を記録。また現代の水害に備える防災の取り組みなども盛り込んでいる。

このDVDは一関市内の小・中学校70校あまりと公共機関、各種団体、企業などに配布された。



完成したDVD

とうほく☆地域を守る防災コンテスト２００７

実施概要

学校、町内会、企業、自主防災組織など、東北地方にお住まいの皆さんが一生懸命に取り組んできた防災、防犯活動の「ガンバリ」を発表する場として、とうほく☆地域を守る防災コンテスト２００７が開催された。

当日は10組の団体の参加を得て、ポスターセッションや発表会を通じて、地域の様々な取り組みを紹介し合い、知恵やアイデア、課題を共有することで、新たな発見や出会いが生まれた。



最優秀賞の宮古工業高等学校の作品


一関文化センターでの表彰式

●開催日時　平成19年7月2日～8月10日
●展示会及び最終審査　平成19年9月16日(日) 一関市文化センター


ユニーク賞のアップルウェーブの作品


砂鉄川土地利用組合の発表


優秀賞の大曲の水辺に夢を作ろう会の作品


さまざまな団体からご応募頂いた

参加団体

賞	団体名	タイトル
最優秀賞	宮古工業高等学校	宮古湾周辺津波防災模型
優秀賞	藤沢町第24区自主防災部	24区防災マップ
優秀賞	大曲の水辺に夢をつくろう会	白山地区における自主防災の意識啓発
ユニーク賞	アップルウェーブ㈱	「やさしい日本語」によるわかりやすい情報伝達が災害時要援助者を救う
地域防災力アップ賞	一関工業高校　土木科	河川情報マップ「アイ・ＭＡＰ」～住民参画型地図の作製～
地域防災力アップ賞	大船渡市立綾里小学校	暴れ狂った海
	宮城県気仙沼市	幼児教育における津波防災について
	金剛院丁東部町内会	くらしの便利帳
	柴田町第29Ａ行政区自主防災組織	防災マップと自主防災訓練計画
	一関市千厩10区自主防災組織	災害ボランティア「たまご湯出前足湯」
	砂鉄川土地利用組合	水害を忘れない地域活動

市民ミュージカル
「今伝えよう！一関の年輪」

実施概要

一関の歴史を振り返り、アイオン台風の被害の実話から生きることの大切さを学び、市の繁栄を願って未来に羽ばたく勇気と元気を謳いあげる、市民の市民による市民のためのミュージカル。

前年度公演で好評を博したキャスト・スタッフたちが、カスリン台風から60年の節目の年に再結集。50名近い出演者や舞台を陰から支えたスタッフ全員の力が結集し、公演当日、一関文化センター大ホールの超満員の観客の中、舞台は大成功を修めた。

















●開催日時　平成19年9月16日（日）
14時開演

●会　　場　一関市文化センター

今伝えよう一関の年輪【あらすじ】

一関の夏祭りの夜、祭りを楽しんでいるたくさんの人々の中に孫達と歩く女性がいた。彼女は、今の孫娘と同じ年齢の時に、アイオン台風に遭い、家ごと押し流され、九死に一生を得た経験を語り始める。

激しい雨、恐ろしい勢いで押し寄せる水、家族が屋根に避難したのもつかの間家ごと押し流され、鉄橋にぶつかり、母や弟が濁流に飲み込まれても助けるすべがなく、自らも激流に流され、父親の声に励まされながら、登米郡川欠で岩に打ち上げられたところを救出された。

ゼロからのスタート。市民は助け合い、復興に尽力した。街は少しずつ活気を取り戻してきた。

私たちは忘れない、今、この地に生きていることを。先人の命と力を受け継いでいることを。

私たちは目指そう、互いに助け合って行くことを。
みんなが笑顔で暮らせる一関を作っていくことを。

北上川上流水防演習

実施概要

カスリン・アイオン台風をはじめ、これまで北上川流域では洪水被害による多くの犠牲者を出してきた。近年は治水事業が進み、ダムや堤防などの川のはん濫を防止するための対策がとられるようになり、洪水被害は減少しつつある。しかし、いまだに堤防が整備されていない地区や、堤防の高さが不十分な地区が多く残っているのも事実である。さらに、近年は異常気象による豪雨や都市化による浸水被害なども各地で発生するようになり、それらに対する「備え」が急務となっている。

水防団は、洪水から地域を守る「備え」の最先端で活動する人々である。洪水時に地域の水防団や住民が協力し、破堤の危険がある箇所にあらかじめ水防工法を施す役目を担っている。水防活動とは、これらの被害を未然に防ぐ活動のことをいい、地域を守るためにとても重要な役目である。

水防団が日頃の訓練の成果を発表し、その技術や経験を高めるとともに、関係機関や地域との連携や水防体制の強化を図ることを目的に、花巻市において、北上川上流水防演習を実施した。

テーマ
カスリン・アイオン台風から60年 過去の教訓を明日の安心へ

本演習では、水防団員約1500人と地域住民、ボランティア等を合わせて約4000人が参加し、北上川上下流での情報共有訓練、北上川流域市町村水防団による水防工法の実演、陸上自衛隊による応急架橋訓練、地域住民が参加する避難訓練などが行われ、本格的な出水期を前に水防の重要性を深めるとともに、災害への備えに対する必要性を再確認した。

また同時に、東北6県の代表水防団が水防工法の技術を競う「東北水防技術競技大会」も開催された。

●実施日　平成20年5月31日
8時30分～12時

●開催場所　花巻市里川口地先
北上川右岸河川敷（朝日橋下流）



水防団の活動（木流し工）


土のう作り体験



駆け足で集合



開会式



水防団の活動（積土のう工）



東北水防技術協議大会



救助訓練（岩手県防災航空隊）



水防団の活動（月の輪工）



応急架橋訓練（陸上自衛隊岩手駐屯地）



応急給食配布（花巻支部婦人会消防連絡協議会）



避難訓練（花巻市内小学校関係者及び町内会）

●北上川学習交流館あいぽーと企画展

あの時を、忘れない
嵐の記憶（昭和22年・23年9月）

■平成19年4月1日（日）～5月31日（木）
■北上川学習交流館あいぽーと

カスリン台風の災害の教訓を風化させず、防災意識の高まりをねらい、当時の災害写真や復元した倒壊家屋、用心舟などを展示した。

「平常時での北上川の歴史」のコーナーには、藤原時代の遺跡から出土した発掘品や縄文時代の土器などを年代ごとに展示。また近代の川文化コーナーには、現代では珍しい川漁の道具などが展示された。水害写真の前では、その被害の大きさ・悲惨さに、年齢を問わず多くの人が足を止めて見入っていた。倒壊家屋を復元したコーナーでは、「当時が思い浮かぶ、あの頃に戻ったようだ」と話す体験者もいた。





北上川学習交流館あいぽーとでの企画展の様子。市民が真剣に目をかたむける

●実行委員会・一関商工会議所・前沢南地区自治振興会ほか

台風洪水時の水位表示板

■平成19年～20年
■一関市・奥州市内各所

カスリン・アイオン台風60年事業実行委員会は、（社）東北建設協会の支援を得て、ＪＲ一ノ関駅東口・西口、道の駅かわさきの計3箇所に、カスリン・アイオン台風他の洪水位標示版を設置した。

一関商工会議所も、大町や地主町、大手町など市内10箇所の電柱に洪水位標示板を設置した。

また、前沢南地区自治振興会（奥州市前沢区）が日頃から取り組んでいる「安全・安心・災害のない町づくり」活動の一環として、地区内の3箇所に痕跡水位表示板を設置したほか、他地域でも同様の取り組みが実施された。



設置した痕跡水位表示板（前沢南地区自治振興会）



道の駅かわさき



商工会議所が設置した表示板



JR一ノ関駅西口

●あいぽーと体験プログラム

「水害語り部教室」
カスリン・アイオン台風水害体験を語り継ぐ

■平成19年～20年（全4回）
■北上川学習交流館あいぽーと・一関市中里中学校

カスリン・アイオン台風をはじめ、水害の歴史が長い一関市。その歴史を後世に語り継ぐことを目的にカスリン・アイオン台風の水害体験者を招き「忘れないあの水害の記憶」をテーマに、その思いや体験談を語っていただいた。当日はお招きした水害体験者4人から、水害の恐ろしさや災害時の備えなどについて語っていただき参加者の皆さんと水害への備えの考える機会とした。

この企画は9月12日にも一関市立中里中学校でも開催され、100名あまりの生徒・教師と共に水害について考えた。





当時8才だった千葉さん。濁流とともに北上川を28kmも流された様子などを克明に語って頂いた

●北上川学習交流館あいぽーと企画

「水害かるた」作成とかるたとり大会

■平成20年1月12日（土）
■北上川学習交流館あいぽーと

水害の恐ろしさや避難する大切さ、隣近所との協力や地域連携の重要さなどを「かるた」にした。水害から身を守ること、いざという時に大切な地域との結び付きを「かるた」に託し、水害の備えや防災、減災に役立てながら、後世に引き継いで行くことを趣旨に企画。句は平成19年8月～10月まで一般から募集した中から選ばれた。

完成した「水害かるた」は、図書館や学校、公民館等に寄贈され、防災・減災等の学習資料として水害の恐ろしさや治水事業の啓発に活用されている。





一般公募して完成した「水害かるた」を使い、楽しみながら台風や遊水地事業などについて学んだかるた取り大会

●羽田地区振興会

自主防災の意識啓発に向けた取り組み

■平成19年～20年
■羽田公民館（奥州市水沢区）

奥州市水沢区羽田町は、昭和22年9月のカスリン台風、翌23年9月のアイオン台風により大きな被害を受けた地域の一つであり、同地区は地形的条件から現在でも大雨時には度々浸水（内水）被害が発生する地域である。

このため、カスリン・アイオン台風60年事業期間中には、羽田地区振興会が中心となり、冊子「語りつぐカスリン・アイオン台風」のリニューアルや防災ワークショップの開催など、様々な取り組みを通じて地域住民の防災意識の啓発に務めた。



リニューアル版「語りつぐカスリン・アイオン台風」


羽田地区防災ワークショップの開催

●大曲の水辺に夢をつくろう会

子供たちに洪水体験を聞かせる会

■平成19年9月27日（木）
■大曲水辺公園

かつてカスリン・アイオン台風で大きな被害を受けた奥州市前沢区白山地内で「川に学ぶ２００７　風化させるな洪水体験を・そして伝えよう・今」が開催された。

当日は、地域住民や城山小学校の全校児童など１００名あまりが出席。直前の17日には平成14年以来の集中豪雨が岩手県内を襲い、会場にもその爪跡が残ったままだった。

それだけに、カスリン台風を実際に体験した方々のお話には、参加者全員が真剣に耳を傾け、洪水に対する備えの大切さを改めてかみしめていた。


昭和22年9月のカスリン台風、昭和23年9月のアイオン台風、平成14年7月の6号台風で、大曲橋一帯で記録した水位表示板を小学生たちが除幕した



●奥州市立愛宕（おだき）小学校

洪水をテーマに学習発表会

■平成19年10月27日（土）
■奥州市立愛宕小学校

奥州市立愛宕小学校では、洪水をテーマにした学習発表会を行った。昭和20年代、愛宕村だったこの地区は、カスリン台風洪水で大きな被害を受けた。しかも、その復旧が完全ではないうちに翌年のアイオン台風洪水で再び堤防が決壊し、旧愛宕村は戦後最大の被害を受けた。

愛宕小6年生はこの時の出来事をテーマに「ふるさと愛宕、再発見！　～災害に負けなかった人々～」を発表。当時の愛宕村村長が村人を励まし、新た堤防建設の必要性を決意する様子などを創作劇で演じた。







●奥州市水沢区姉体地区

災害の記憶を後世に伝える地域の取り組み

■平成19年～20年
■姉体公民館・上姉体分館
（奥州市水沢区）

奥州市水沢区姉体地区は、昭和22年9月のカスリン台風、により大きな被害を受けた地域の一つであり、当時の大洪水の状況を思い起こし、後世に語り継いでいくため、洪水体験者の発表や意見交換会、洪水写真パネル展などを実施した。



「カスリン・アイオン台風60年の思い出を語る」



洪水写真パネル展の開催状況



「カスリン・アイオン台風を語る会」

あなたとかわ

～想いで写真集～

カスリン・アイオン台風から60年。
私たちは生活用水や農業用水、水辺の憩いの場として
北上川の恩恵を受けてきた一方で、
度重なる洪水と闘ってきました。
これらの歴史を風化させず次世代へとつないでゆくため、
皆様から「川と生活との関わり」、「洪水」、「風景」などの
スナップ写真を募集したところ、
総計602点もの応募を頂きました。
応募いただいた写真を通して
これまでの北上川の暮らしの変遷を辿りながら、
今後の「望ましい北上川」や「流域社会のあり方」について
考えてみませんか？



アイオン台風時に磐井川上流で起きた土砂崩れ
（所有／及川尚）



大正末期の磐井橋御川戸（所有／及川尚）



磐井橋
（所有／及川尚）



水天宮と思われる
（所有／及川尚）



水害で磐井橋へ盛土した取付道路を行くみこし（所有／及川尚）



一関市護岸工事中（所有／千田きや子）



舟っこ流し
（所有／谷村和郎、撮影／大正9年、盛岡市明治橋）



大正13年に完成した上の橋木橋
（所有／及川尚）



昭和9年夏。最後の渡し舟（所有／一関市、高館橋付近）



昭和9年7月年施工前　（所有／一関市、高館橋）



昭和9年前（所有／一関市、高館橋付近）



本寺発電所の下流、山谷川にかかる入道橋
橋の両側が水で洗われ無くなっている
（所有／及川尚）



昭和9年7月完成（所有／一関市、高館橋）



（所有／千田きや子、撮影／昭和12年、花川戸）



磐井川・一関一高付近
（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和22年9月）



カスリン台風で浸水した黒沢尻駅
（所有／齋藤博、撮影／昭和22年月）



黒沢橋
（所有／若生隆宏、撮影／昭和27年8月29日、磐井川）



花川戸の火事
（所有／千田きや子、撮影／昭和12年4月19日、花川戸）



アイオン台風が過ぎ去った後。釣山から見た北上・磐井川（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和23年）



一関市五十人町付近
（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和22年9月）



山目花川戸付近
（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和22年9月）



一関市街地を望む
（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和23年から数年後）



磐井橋
（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和22年9月）





一関総合支局 土木部のガラス板
（所有／一関総合支局、撮影／昭和24年1月27日）



水害後。水天宮のケヤキの木
（所有／千田きや子）



一関総合支局 土木部のガラス板
（所有／一関総合支局、撮影／昭和24年1月30日）



一関駅前の水害の状況
（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和23年）



豪雨による河川のはん濫。古陣場橋、黒沢尻東小学校東側（所有／齋藤博、撮影／昭和32年8月）



一関総合支局 土木部のガラス板
（所有／一関総合支局、撮影／昭和24年1月27日）



一関総合支局 土木部のガラス板
（所有／一関総合支局、撮影／昭和24年1月27日）



昭和30年頃（所有／一関市、高館橋付近）





磐井橋の架橋工事
（所有／熊谷昭夫、撮影／昭和25年～30年の間）



豪雨による河川のはん濫
（所有／齋藤博、撮影／新昭和32年8月、新穀町北上市役所）



コンクリート橋にしたのは昭和31年頃から
（所有／一関市、高館橋付近）



石巻市・河北町からの朝日は、感動の一言。いつまでも自然で美しい北上川を守り続け、未来へ
（所有／菅原千代人、撮影／平成19年5月23日、石巻市）



天神丸出航
（所有／中川原豊、撮影／平成10年10月10日）



盛岡の夏の風物詩「とうろう流し」
（所有／菅野敬夫、撮影／昭和18年8月16日、盛岡市）



中津川・上の橋湖畔のしだれ桜
（所有／中村耕一郎、撮影／昭和16年4月22日、盛岡市）



長徳橋付近。北上川のまき運び渡し船を再現
（所有／川原一文、紫波町）

あなたとかわ ～想いで写真集～



ちゃっこい村のでっかい花火大会。打ち上げを待つ見物客
（所有／長嶋誠也、撮影／平成17年8月16日、一関市）



三橋漁親丸
（所有／及川良賢、北上市）



たそがれの北上川
（所有／槻田久志、撮影／平成19年3月10日、花巻市）



新・旧北上大橋と落日
（所有／伊藤利喜雄、撮影／平成17年8月、一関市）



「みんなでチーズ」仁王小学校の総合学習
（所有／矢澤慎、撮影／平成19年6月24日、盛岡市・富士見橋付近）



「何かがいるぞ」仁王小学校の総合学習
（所有／矢澤慎、撮影／平成19年6月24日、盛岡市・富士見橋付近）

伝えよう！

カスリン･アイオン台風60年

忘れまい！先人たちの努力と勇気

カスリン･アイオン台風60年事業報告書

【発行日】2009年3月

【企　画】カスリン・アイオン台風60年事業
実行委員会

【企画】
カスリン・アイオン台風60年事業
実行委員会

